

シナノキ

四季の観察ポイント

春



葉は
ハート形

夏



開花は6～7月
レモンのような
甘い香り

秋



花の蜜を集める
ミツバチ

冬



一年生枝は黄～赤褐色
冬芽の芽鱗は大小2枚



アオイ科
シナノキ属
樹高 20～25m

養蜂家が
蜂蜜を
採取する



樹皮は暗褐灰色で
縦に浅く割れ目が入る

北海道から九州まで広く分布する落葉広葉樹。肥沃でやや湿気に富む土地に生え、ハリギリ、ミスナラ、カツラなどと混交し、大きいものでは幹の直径が1mに達します。また、萌芽力が強く、株立ちした樹形もよく見られます。

北海道での開花は6～7月にかけて、道南から道北に移っていきます。レモンのような甘い香りのする花からは良質の蜜が採れるため、養蜂家はシナノキの開花にあわせて各地を移動します。

リン子の絵日記



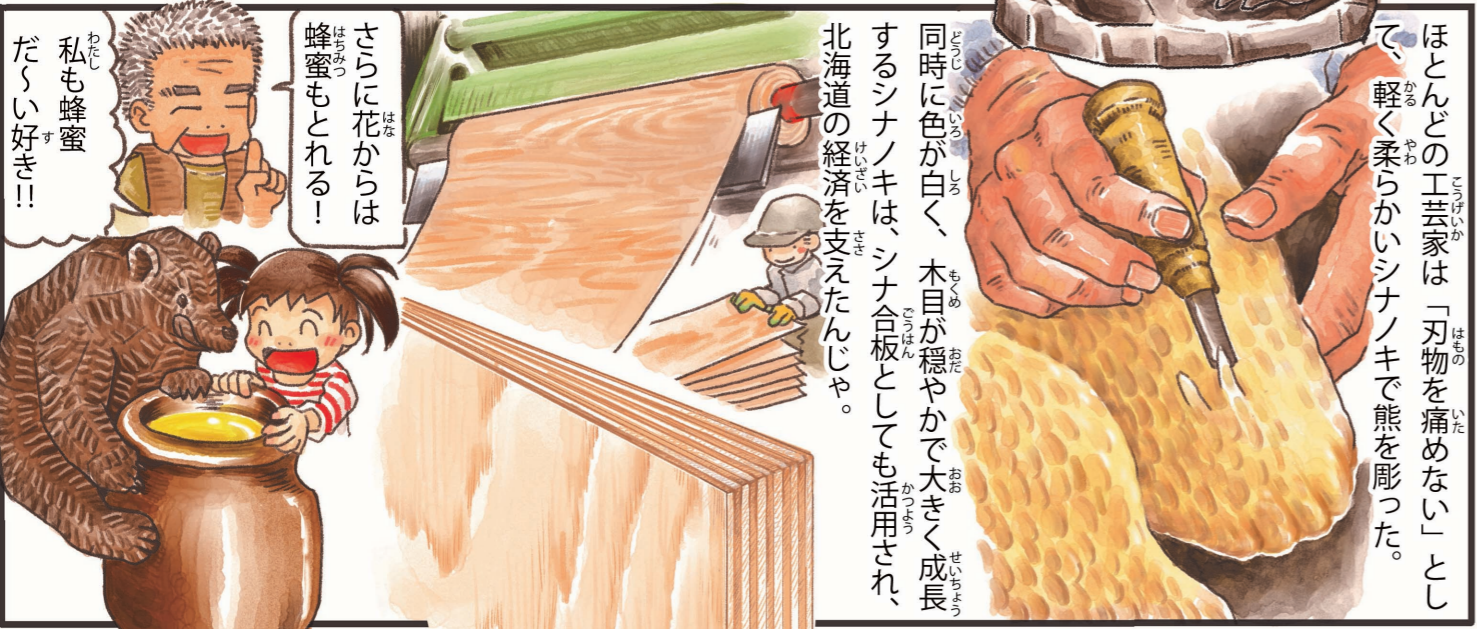
わあっかわい
木彫りの熊！

シナノキから
彫られた、鮭背負い
熊じゃ。

一昔前、北海道土産といえ
ばこの木彫り熊じゃった。

1922年尾張徳川十九代当主・徳川義親は旅先のスイスで見つけたお土産品の木彫りの熊を、翌1923年かつて尾張藩士達が開拓した道南の八雲に持ち込んだ。

農閑期の貴重な収入源に、また美術に触れて暮らしを豊かにして欲しいという義親の願いと共に、木彫りの熊づくりは全道各地に広がっていったんじや。



ほとんどの工芸家は「刃物を痛めない」として、軽く柔らかいシナノキで熊を彫った。

同時に色が白く、木目が穏やかで大きく成長するシナノキは、シナ合板としても活用され、北海道の経済を支えたんじや。

さらに花からは
蜂蜜もとれる！

私も蜂蜜
大好き!!

シナノキとくわいせいのながら

シナノキの材は他の広葉樹と比べて軽く柔らかく、乾燥や切削などの加工が容易であるため、木彫り熊をはじめとした工芸品や、アイスのスプーンなどに利用されてきました。



シナノキの
スプーン

また、木目は白く穏やかであること、近縁種のオオバボダイジュと合わせると、広葉樹として道内3位の蓄積量があることから、昔は合板の材料として重宝され、道内合板の大部分はシナノキから作られていました。

アイヌ民族とシナノキ

オヒョウと同じく樹皮から糸を作り、背負い袋や、背負い紐の材料、建材の連結紐など、いろいろな用途に使いました。オヒョウより硬いため織物にはあまり向かなかったようです。

「ニペツ」「シ・ニペツ」と呼びます。